

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																						
専門学校麻生工科自動車大学校	平成20年3月31日	野見山 秀樹	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-8-28 (電話) 092-433-0634																						
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																						
学校法人麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999																						
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																					
工業	工業専門課程	自動車工学・機械設計科	平成22年文部科学大臣告示第152号	—																					
学科の目的	3DCADエンジニア、設計開発エンジニア、FA制御エンジニア、組込みエンジニアとして、いずれにも対応できるカリキュラムで、発想力が強く、物事に柔軟に対応できる人材を育成する。																								
認定年月日	平成 26 年 3 月 31 日																								
修業年限	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験																				
3 年	2670時間	1290時間	1380時間	0時間	0時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																				
120人	37人	3人	2人	6人	8人																				
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う																					
長期休み	■学年始:4月1日～4月11日 ■夏季:8月3日～9月13日 ■冬季:12月22日～1月11日 ■学年末:1月30日～3月31日		卒業・進級条件	履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。																					
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 補講の実施、休学、留年		課外活動	■課外活動の種類 (例)学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 ボランティア活動 ■サークル活動: 有																					
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 自動車部品メーカー、産業機械メーカー ■就職指導内容 職業安定法第33条の2に基づいて、求職票を受理した全学生を本校で活動する求職者として登録し、求職者の依頼に基づき就職の斡旋を行う。求職者は麻生塾就職斡旋規定のルールを遵守。 ■卒業者数 : 15 人 ■就職希望者数 : 15 人 ■就職者数 : 15 人 ■就職率 : 15 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 (平成 28 年度卒業者に関する 平成29年5月1日 時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成28年度卒業者に関する平成29年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>3DCAD利用技術者2級</td><td>③</td><td>15 人</td><td>15 人</td></tr><tr><td>3DCAD利用技術者準1級</td><td>③</td><td>15 人</td><td>15 人</td></tr><tr><td>3DCAD利用技術者1級</td><td>③</td><td>9 人</td><td>4 人</td></tr><tr><td>機械設計技術者試験3級</td><td>③</td><td>4 人</td><td>1 人</td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄		資格・検定名	種	受験者数	合格者数	3DCAD利用技術者2級	③	15 人	15 人	3DCAD利用技術者準1級	③	15 人	15 人	3DCAD利用技術者1級	③	9 人	4 人	機械設計技術者試験3級	③	4 人	1 人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																						
3DCAD利用技術者2級	③	15 人	15 人																						
3DCAD利用技術者準1級	③	15 人	15 人																						
3DCAD利用技術者1級	③	9 人	4 人																						
機械設計技術者試験3級	③	4 人	1 人																						
中途退学の現状	■中途退学者 1 名 ■中退率 2.5 % 平成28年4月1日時点において、在学者40名(平成28年4月1日入学者を含む) 平成29年3月31日時点において、在学者39名(平成29年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 学生ガイダンス実施マニュアルに沿った細かな面談の実施																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 経済的理由により修学困難である者に対して授業料を減免する。 東日本大震災により被災し進学が困難になった者を対象に入学金・校納金・寮費を全額免除する。(卒業まで) ■専門実践教育訓練給付: 無																								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																								
当該学科のホームページURL	https://entry-acet.asoiku.ac.jp/about/subject.php																								

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

3DCADを駆使した製品設計開発、各種工学知識、PLC(シーケンサ)、産業用ロボットなど企業に近い環境の中で実務スキルを身につけ、3DCADエンジニア、設計開発エンジニア、FA制御エンジニア、組込みエンジニアとして、いずれに対応できる人材を育成することを基本に、適宜編成委員会を開催し授業内容等について確認を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。

また、インターンシップ時等に企業訪問を行い、企業からの要望を伺い教育に生かしていく。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム検討会議に報告するものとする。

- ①カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- ②各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- ③教科書・教材の選定に関する事項
- ④その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

カリキュラム検討会議は、同条第1項の結果を踏まえ、カリキュラム等の検討を行う。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名 前	所 属	任 期	種 別
川口 巖	一般社団法人日本機械設計工業会 九州支部顧問	平成28年11月1日～ 平成29年10月31日(1年)	①
下村 輝夫	福岡工業大学 学長	平成28年11月1日～ 平成29年10月31日(1年)	①
中村 仁	ダイハツ九州株式会社 品質課課長	平成28年11月1日～ 平成29年10月31日(1年)	③
赤塚 炫	株式会社 大興 顧問	平成28年11月1日～ 平成29年10月31日(1年)	③
野見山 秀樹	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長		
安部 優太郎	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行		
小串 浩之	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行補佐		
永江 貴史	専門学校 麻生工科自動車大学校 主任		
坂口 利文	専門学校 麻生工科自動車大学校 教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回を原則とし開催

6月に1回 前年度カリキュラムの課題について 9月に1回 次年度カリキュラムの説明

(開催日時)

平成28年度

第1回 平成28年6月23日 13:00～14:30

第2回 平成28年9月2日 13:00～14:50

平成29年度

第1回 平成29年6月22日 13:00～14:30

第2回 平成29年9月13日 13:00～14:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

車両制作実習の評価方法、評価基準の見直し

(委員意見)

目標値の設定が不透明

(活用状況)

『ものづくりによる実践的な学生教育プログラム』学生フォーミュラを取り入れた授業に変更

全日本学生フォーミュラ大会結果での成果を評価

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業は学生に対し、ものづくりの設計開発から製造までを実習させる事により、学生の学習効果を高め、かつ即戦力となる事を基本方針とした学内教育を実施する。実習においては、「デザイン作業」等のスキルを身につけ即戦力としての人材を育成する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

デザイン会社経営者との連携で、実際のデザインの考え方や実践的なデザイン手法を体験させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
デザイン実習	身近にある自動車を具体的にとり上げ、その仕様、形状設計、機能設計がどの様に行われているかの基礎を学び、次にそれをどのように改良改善するかについて演習する。	ユウ・ワンデザイン

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

3DCADを駆使した製品設計開発、各種工学知識、PLC(シーケンサ)、産業用ロボットなど企業に近い環境の中で実務スキルを身につけ、3DCADエンジニア、設計開発エンジニア、FA制御エンジニア、組込みエンジニアとして、いずれにも対応できる人材を育成することを基本に、適宜編成委員会を開催し授業内容等について確認を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。また、インターンシップ時等に企業訪問を行い、企業からの要望を伺い教育に活かしていく。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1. 日本テクシード研修

(目的)3次元CAD教育方法講座

(概要)モデリング、図面作成の操作説明手順について

(受講者)教員1名

2. 日刊工業新聞社技術セミナー

(目的)マツダの自動車開発及び技術の理解

(概要)ロードスターの新技術について

　　ものづくりの新技術について

(受講者)教員2名

3. 日刊工業新聞社技術セミナー

(目的)日産の自動車開発及び技術の理解

(概要)セレナの新技術について

　　自動運転技術について

(受講者)教員2名

②指導力の修得・向上のための研修等

1. アドラー心理学

(目的)アドラー心理学活用による退学防止策とクラス経営術

(概要)アドラー心理概要、教師がつくる楽しい学習環境、カウンセリングマインド、やる気を引き出す

　　勇気付けの理論と技法

(受講者)1名

2. 新任教員研修

- (目的)①麻生塾の概要を理解し、自分の果たす役割を明確にする
②麻生塾のクラス運営、授業法を理解する
③同期入社間の交流を図る

(概要)学校概要、学内ルール、業務内容、授業法など

(受講者)教員2名

3. ハーバード流 退学防止とクラス運営術研修

- (目的)退学防止とクラス運営

(概要)世界で最も「成功」と「幸せ」について考えてきたハーバード大学の研究から構想された「幸せになる技術」を基に学生の退学防止とクラス運営方法を学ぶ

(受講者)教員1名

4. 経営改革・教育改革研修

- (目的)本研修では、専門学校特化型のアクティブ・ラーニング手法を用いた具体的な経営改革・教育改革の研修
(概要)「将来にわたり発展していくために学校改革の方向は、どこに向かうべきなのか」

「教職員の意識を変革しモチベーションを高めるためには」

「卒業生の評価を高める教育改革はどのように進めれば良いのか」

「国家資格の取得率を高めるアクティブ・ラーニング手法とは」「すぐに実践でき効果の高い教育改革とは何か」

「入学した学生の意識を変えるためには」「退学を止めるためには」

「募集力を高めるオープンキャンパスとは」「新たな学校種である専門職大学はどうしたら良いか」など

(受講者)教員2名

5. 心理療法カウンセリング講座

- (目的)ネットトラブルへの対応

(概要)いじめ、不登校、ネットトラブルの学校や家庭での対応

(受講者)教員1名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1. バンザイ研修

- (目的)最新の整備技術、機器類について

(概要)未定

2. 福岡トヨペット技術研修会

- (目的)トヨタ車の技術、安全作業、新型車

(概要)未定

3. いすゞ販売会社研修

- (目的)大型車の技術の理解及び大型車整備の現状把握

(概要)技術:コモンレール、エアブレーキ

整備設備:工場見学

(受講者)教員1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

1. 教育コーチング研修

- (目的)教員の教育力向上と学校運営力の向上

(概要)コーチングを実践できるまでのスキルトレーニングとコーチングのポイントを学習し、深い学びにつながる
アクティブラーニングを支える対話力のスキルトレーニング

2. 麻生塾スキルアッププログラム 基本研修

- (目的)クラス運営

(概要)学生への話し方、指導の仕方、グループ作りの手法、雰囲気作りについて学ぶ。

1対多と1対1での話し方の違い、どういうケースにどちらが効果的かを学ぶ。

3. 麻生塾スキルアッププログラム 基本研修

- (目的)学則・学内規定

(概要)担当の学校の学則の内容を確認し、留意点を学ぶ。学則を基本とした各種学内規定について知識を深める。生活指導面、就職指導、成績評価、学内文書など。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	建学の精神、法人の理念、教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他
(2)学校運営	教員組織の整備、運営会議での共有、防災・非常時対策、コンプライアンス
(3)教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、授業評価による改善、付加的教育、他
(4)学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、学生の就職活動・卒業率
(5)学生支援	担任他との定期面談、有資格者との就職相談・生活相談、奨学金、卒業生支援
(6)教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他
(7)学生の受入れ募集	ADの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試
(8)財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開
(9)法令等の遵守	規程通りの運営、個人情報保護、ハラスマント防止、学内規程の整備
(10)社会貢献・地域貢献	社会的活動の推進・実施、公開講座、企業・地域・行政との連携
(11)国際交流	留学生の受入れ・支援

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

1. 保護者会

(評価結果)三者面談方式での実施は有効

(活用状況)継続実施

2. 授業アンケート

(評価結果)アンケート結果に対し、主任と本人で共有しコメント記入は有効

(活用状況)継続実施

3. チュータ制度

(評価結果)ベテラン教員によるチュータ制度は有効

(活用状況)継続実施

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年7月1日現在

名前	所 属	任期	種別
堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 人事部長	平成28年8月1日～ 平成29年7月31日(2年)	企業
市川 利治	福岡トヨタ自動車株式会社 営業業務部部長	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	企業
藤田 一	ダイハツ工業株式会社 執行役員	平成29年6月1日～ 平成31年5月31日(2年)	企業
時松 真秀子	平成23年度卒業生	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	卒業生
杉本 誠	平成22年度卒業生	平成28年6月1日～ 平成30年5月31日(2年)	卒業生
林 紀子	保護者	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	保護者
村上 伸二	東比恵2丁目町内会	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	地域住民
大和 豊	筑紫台高等学校 校長	平成27年11月1日～ 平成29年10月31日(2年)	高等学校
下村 輝夫	ものづくり人材育成センター 顧問	平成28年6月1日～ 平成30年5月31日(2年)	団体

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ 毎年9月)

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた評価を行い、その結果を校長に報告する。校長は、その結果を踏まえ、教育活動及び学校運営の改善を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校法人の沿革、教育の目標、学則、諸規程
(2)各学科等の教育	学科の教育方針、年次別目標、目標資格、カリキュラム、進級・卒業要件、他
(3)教職員	教員一覧、専任・兼任教員数
(4)キャリア教育・実践的職業教育	グローバルシティズンベーシック、インターンシップ、教育課程編成委員会
(5)様々な教育活動・教育環境	学園祭、ボランティア活動、クラブ活動
(6)学生の生活支援	臨床心理士による学生相談室、ハラスマント相談、留学生支援、障がい者支援
(7)学生納付金・修学支援	金額・納付時期、分割納入制度、授業料減免、奨学金、被災地支援
(8)学校の財務	貸借対照表、收支計算書、監査報告書
(9)学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価、
(10)国際連携の状況	インドネシアのBINUS大学、留学生専用学生寮、(日本語科)
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

パンフレット、募集要項、学生便覧、Webサイト

URL:<http://www.asojuku.ac.jp/acet/>

授業科目等の概要

(工業専門課程自動車工学・機械設計科) 平成29年度														
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所		教員	企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任
○			自動車工学 I	理工学社発行 自動車工学入門 自動車の基本機能「走る・曲がる・止まる」のしくみに関する知識、自動車の性能・強度の基礎知識	1通	60	4	○		○			○	
○			工業力学	東京電機大学出版局発行 材料力学考え方・解き方。弾性理論の基礎知識。構造物の強度解析の基礎知識	1通	60	4	○		○			○	
○			生産技術	自動車は製品の構想・設計を経て、工場部門での製造という過程を経るなかで造られる。その中で、設計者として何が必要なのかを生産技術の立場から理解する。	1通	45	3	○		○		○		
○			機械要素	日本実業出版社発行 学生のための初めて学ぶ機械工学 エンジンのしくみと性能熱から仕事への変換・低公害で燃費の良いエンジン	1通	60	4	○		○			○	
○			就職実務 I	職業理解と企業研究を重点に行う。 興味、価値観、性格、能力などの自己分析とキャリアプランニング	1通	30	2	○		○		○		
○			PC基礎	基本的な知識、表計算ソフト(Excel)、文書作成(Word) プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の基本的な活用方法を習得する。	1通	60	4	○		○		○		
○			基礎数学	実教出版発行 これだけはおさえたい理工系の基礎数学 数式から方程式の基礎を理解する。比と割合、指数関数と対数関数、ベクトル	1通	60	4	○		○			○	
○			基礎物理	河合出版発行 物理のエッセンス 力学・波動 力学や波動の基礎を理解する。微積物理、次元解析	1通	60	4	○		○			○	
○			英会話 I	Pearson Japan 出版 「SIDE by THIRD EDITION」 コミュニケーションを図る上での基本的な表現方法を学ぶ。	1通	60	4	○		○		○		
○			G C B I	人間教育（感謝の心とおもいやりの教育） 感謝の心が人間力の根底にあることを知る。人間力を高めるためのマナーの重要性に気つく。	1前	15	1	○		○		○		

○		P L M実習基礎	CATIAでのモデル作成や図面作成における基本的な操作方法について学ぶ。 3次元CAD利用技術者2級の取得を目指す。	1通	180	12		○	○	○	○
○		図学	機械製図の基礎を理解する。 図形や寸法の表し方、寸法公差およびはめあい、材料記号等	1通	60	4		○	○		○
○		加工実習Ⅰ	普通旋盤・フライス盤・ベンチドリル、各部の名称及び基本操作。各設備対応の切削工具と、その使い分け。基本課題切削、及び設備保全	1通	90	6		○	○		○
○		デザイン実習	絵を描く事の基礎を学び、実際に自動車のコンセプトデザインを作成する。スケッチ作成の基礎を学ぶ。	1通	60	4		○	○		○ ○
○		自動車工学Ⅱ	理工図書発行 自動車力学 自動車の性能・強度に関する力学的理論。 主要装置の仕様内容	2通	60	4	○		○		○
○		熱・流体力学Ⅰ	機械設計技術者試験3級の取得を目的とした、熱・流体力学の基礎知識と試験対策を行う。	2通	120	8	○		○		○
○		材料力学Ⅰ	東京電機大学出版局発行 材料力学 考え方・解き方 弾性理論の基礎知識、構造物の強度解析の基礎知識	2通	60	4	○		○		○
○		就職実務Ⅱ	就職に対する心構えと準備を重点に行う。 自己分析、仕事研究などから自己PR、志望動機などの準備	2通	60	4	○		○		○
○		英会話Ⅱ	Pearson Japan 出版「SIDE by THIRD EDITION」 コミュニケーションを図る上での応用的な表現方法を学ぶ。	2通	60	4	○		○		○
○		G C BⅡ	人間教育（志の教育） 考えること、自分の言葉で伝える大切さを知る。行動する大切さに気づく。	2前	15	1	○		○		○
○		P L M実習応用	複数のモデルを組み合わせる方法やCAE解析を用いた強度検討方法について学ぶ。 3次元CAD利用技術者準1級の取得を目指す。	2通	120	8		○	○		○
○		加工実習Ⅱ	構造品の製作・構造設計（加工図作成）・ 加工工程検討（内・外作の仕分け、他）・ 内作品の加工・品質確認（内・外作品とも）・組立配線	2通	90	6		○	○		○
○		メカトロ演習Ⅰ	シーケンサへの配線作業 及び 図面に関する基礎知識。シーケンサプログラミング作成方法とプログラミングに関する基礎知識	2通	120	8		○	○		○

○		車両開発・製作実習Ⅰ	車両の設計を行い、実際に加工、溶接を行い走る、止まる、曲がるの車両を製作する。予算に合わせた構想を思考する。また、ベースとなる部分の加工を行う。	2通	180	12	○	○	○	○	○	
○		自動車工学Ⅲ	自動車技術会発行 自動車工学一基礎一自動車の開発の流れー設計から評価までーの業務内容・主要装置の設計方法の基礎知識	3通	60	4	○	○	○	○	○	
○		熱・流体力学Ⅱ	機械設計技術者試験3級の取得を目的とした、熱・流体力学の応用知識と試験対策を行う。	3通	60	4	○	○	○	○	○	
○		機械設計学	機械設計技術者試験3級の取得を目的とした、幅広い分野の基礎知識と試験対策を行う。	3通	60	4	○	○	○	○	○	
○		材料力学Ⅱ	朝倉書店発行 材料力学 機械工学基礎講座3弾性理論による強度・剛性解析。構造力学による構造物の強度解析。材料強度の基礎知識	3通	60	4	○	○	○	○	○	
○		生産管理	理工学社発行 生産管理入門 工場の管理組織、生産の基本的な計画、工程管理、作業研究、資材と運搬の管理について学ぶ。	3通	60	4	○	○	○	○	○	
○		就職実務Ⅲ	就職に対する心構えと準備	3前	45	3	○	○	○	○	○	
○		英会話Ⅲ	Pearson Japan 出版「SIDE by THIRD EDITION」 コミュニケーションを図る上での実践的な表現方法を学ぶ。	3通	60	4	○	○	○	○	○	
○		P L M実習実践	設計変更しやすいモデルの作成方法について学ぶ。3次元CAD利用技術者1級の取得を目指す	3通	120	8	○	○	○	○	○	
○		メカトロ演習Ⅱ	産業用ロボットの操作方法 及び ロボット言語に関する基礎知識。シーケンサプログラミングに関する応用知識動作確認 及び デバッグking方法。	3通	120	8	○	○	○	○	○	
○		車両開発・製作実習Ⅱ	構造品の製作・構造設計（加工図作成）・加工工程検討（内・外作の仕分け、他）・内作品の加工・品質確認（内・外作品とも）・組立配線	3通	240	16	○	○	○	○	○	
合計			34科目	2670単位時間(174単位)								

卒業要件及び履修方法				授業期間等	
履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。				1学年の学期区分	2期
				1学期の授業期間	15週